

極真空手田畑道場十年大計たる第4弾

「死せる大山倍達総裁生ける田畑を走らす」

2021年6月

私儀、田畑繁が大山総裁から「師範」を拜命しているのは、大山総裁の意志を継ぎ、極真カラテの伝道師、後継者としての証です。

その私には大きな使命があります。それは、大山総裁の意志を継ぎ後継者である「師範」を育成し任命することにあります。年齢的な事もあり、一般道場生と共に稽古して極真カラテの継承伝承して頂くこと、極真カラテを後世に残すべく指導者を育成し、極真カラテを普及発展させることにあります。

そこには空手修業年数、空手の実力もさることながら、田畑道場や一般社団法人極真会館の貢献度も大きく重視されます。初段から三段までは道場段で取得されますが、四段五段は一般社団法人極真会館理事会において、昇段審査会の受審資格が認証されなければ昇段審査を受審することができません。とても狭き門です。

狭き門とはいえ諦める必要はありません。先ほど「師範」を育成し、任命するのが私の使命とあるように、まずは有段者全員に対し、大山総裁の意志を継ぎ極真カラテの後継者たる教えを伝授します。

有段者全員に大山総裁の思想、極真カラテの神髄、理念精神、稽古理法、礼法作法というものを伝授しますので、学んでいただきたいと思います。

その中において、師範・師範代として志のあるものは立心向上、発奮を促し、その初心を手中に収めていただきたいと思います

一年は約52週あります。各支部は週に1回～4回の稽古指導があります。稽古終了後に自説や稽古の感想等をお話され、その後に今私が執筆中の「師範・師範代・指導者・有段者への道」事例52カ条の一説を説明して頂きたいと思います。

事例52カ条は、師範・師範代・指導者・有段者を目指す人たちの必修科目です。

知識、見識、胆識という言葉があります。例えば三合法は知っている、これは知識です。三合法によって自分の生命力を高めることを信念し、使命感にまで高めます。これは見識です。

胆識は、この三合法を実践して自分自身の生命力が最高に高まっていることを体験し、自覚することです。

ですから、この事例集52カ条を知識から見識、そして胆識へと高めていく三識というものを身に付けなければなりません。

コロナ禍の為、毎月一回の帯研は、本部しか稽古していません。そこで各地区でこの帯研の代わりに、師範・師範代・指導者・有段者を目指す人たちのために、事例集52カ条が完成するまでの間、7月の第三週の木曜日午後8時より約20分間の予定で私がオンラインで講義

をします。

これは事例集 52 カ条に基づいてです。稽古指導で参加できない方は、何か別の方法を考えます。月に一回 20 分という日時が指定されますが、全ての物を手中にしてその上での昇段は無し得ません。昇段審査を選択すれば何かを手放す決意が必要です。これが武の道です。

そして 2026 年 12 月に指導者または有段者の審査会を開催する予定です。

実技と筆記試験で、事例集 52 カ条から出題します。解答の正解率が師範は 90%以上、師範代は 80%以上、指導者は 70%、有段者は 60%以上と合格率の低い狭き門となります。

私は極真カラテの師範です。伝道者・後継者であるので、毎日毎朝瞑想の時に、大山総裁座右の銘の 11 カ条からはじまり、道場訓、極真理念、精神、思想というものを暗唱音読しております。特に師範・師範代・指導者になる方々にも同じく暗唱音読できるくらいの水準になっていただきたいと願っています。なぜなら、私達の道場生は大山総裁から預かっている方々、授かっている方々です。ならば正しい極真カラテの理念、精神、稽古法、礼法作法を伝える義務、責任があります。そうです、これが私達師範、師範代、指導者、有段者の使命なのです。私たちは極真武人なので、道場内外においてまた、日常においても人生の大難においても生涯極真の道を全うしなくてはなりません。極真の理念、精神というものが自分の人生と心の指針とならなければなりません。

何名の方々は私の話をしてることが心の中に、魂へ響いていると思います。

まずは講演会から受講し学び、ご自分を磨き高めてください。

全ては自分のために、極真のために、道場生のためにです。